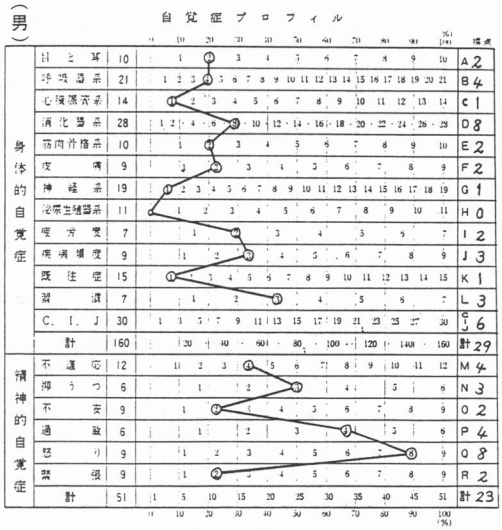
③　第七回目の面接

本人は「うまくやっていけない」とか「このままでは何をやってもだめだ」と沈んだり，こだわりが依然残っていたので，母親から幼児期の様子を聞いてみた。すると，小さいころ「落ち着きがない」「同じ事を何度も繰り返す」「異常なくらい物覚えがよい」などから，自閉的傾向のあることが分かった。そこで，「いつまでもこだわった物の考え方をする」のはこの子の性格であることを理解してもらい，一層受容的かかわり方が大切であることを母親に話した。

ＹＧ性格検査の結果や生活の様子から，抑うつ的傾向が感じられるが，何が大きな要因となっているのか「ＣＭＩ健康調査」によって調べることにした。

資料④　〔本人のＣＭＩ健康調査〕



・怒りを持っているが性格からしてその発散がされていない。

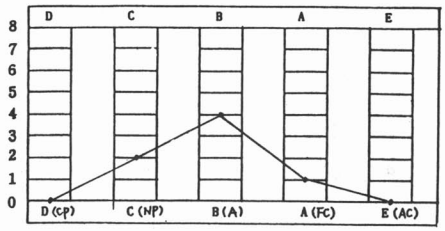
④　第九回目の面接

徐々に気持ちが落ち着いてきて，３学期ごろから学習塾に通えるようになってきた。しかし，相変わらず父とのコミュニケーションはなく，心の距離が感じられた。そこで心身共に健康な発達を遂げていくためには，父親像を学ばなければならないことを話し，父親の来所を求めた。

仕事の都合で度々来れないということで，心理検査をその場で実施し，解釈した。

（親子関係診断テストの結果は省略）

資料⑤　〔父親のエゴグラム〕



・母親に似ている。また小さい頃から大人の会話が多かったようだ。

両親が共通理解に立ち，本人に対して受容的，支持的にかかわることが出来るようになってきてからは，本人も徐々に今までのこだわりから解放されてきた。

また，学校からの温かい配慮もあって卒業することができ，無事，３月に高校入試を突破することができた。

4.　おわりに

「誰も私のことなんか分かってくれないよ」と心を固く閉ざしている子ども。「なぜ，学校へ行けないんだろう」と自分でさえ分からないで苦しんでいる子ども。そうした子どもを理解することは大変である。

教育相談では，そうした本人の「自分で気づいていない部分」（無意識層）にアプローチする場合が多い。すなわち，問題行動はその「気づいていない部分」が原因となり，そこへの指導援助が解決の糸口になることが多いからである。

心理検査の活用によって，その「気づかない部分」に気づくことができ，適切な指導援助を進めることができたように思われる。

今後は，子どもを総合的，客観的に理解していくために，さらに効果的なテスト・バッテリーの在り方について研究していきたい。

◇　参考文献　◇

学校教育相談入門　福島県教育センター
研究紀要（175集）　千葉県教育センター
登校拒否児　新曜社
性格診断マニュアル　テクノ
相談心理学　朝倉書店